

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 株式会社ニコン（証券コード: 7731）

### 【据置】

長期発行体格付	A+
格付の見通し	ネガティブ
債券格付	A+
国内CP格付	J-1

### ■格付事由

- デジタルカメラ・交換レンズの映像事業や、FPD・半導体露光装置の精機事業などを展開している。映像事業ではデジタル一眼レフカメラや交換レンズで高いシェアを握る。精機事業では FPD 露光装置で高精度の中小型パネル用途や大型パネル用途に強みを有し、半導体露光装置でも有力メーカーの1社に位置付けられる。19/3 期までの構造改革フェーズを経て、19年5月に、成長基盤の構築を目標とする中期経営計画を公表した。
- 中期経営計画に則って既存事業の収益力強化と、新たな収益の柱の創出を並行して進めているが、収益力の向上には時間を要する可能性がある。映像事業はデジタル一眼レフカメラや交換レンズの市場縮小、ミラーレスカメラへの本格参入の遅れなどが響き、収益力が低下している。また、精機事業の主力である FPD 装置事業の業績は市場要因で 22/3 期下半期に弱含む見通しである。一方、新たにセグメントを設けたコンポーネント事業が立ち上がりつつあり、22/3 期に一定の利益貢献が計画されている。強固な財務基盤が維持されている中、今後の業績の方向性を慎重に見定める時間があると判断し、格付を据え置き、見通しはネガティブを継続した。
- 21/3 期営業利益（IFRS）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響も重なり 562 億円の赤字（前期は 67 億円の黒字）となった。映像事業は減収の影響、固定資産の減損損失や棚卸資産の廃棄・評価損の計上などにより 2 期連続の赤字となった。精機事業は FPD 装置事業で装置据付に制約が生じたこともあり大幅減益になった。一方、22/3 期営業利益の会社予想は 200 億円の黒字である。映像事業は事業運営費の削減などの効果で 50 億円と少額ながら黒字転換、コンポーネント事業は映像事業を上回る利益水準が計画されている。精機事業は円滑な装置据付を前提に増益計画だが、下半期に業績が弱含む見通しである。
- 21/3 期末の財務諸指標は親会社所有者帰属持分比率が 54.3%であるなど良好であり、実質無借金も継続的に維持されている。また、自己資本は依然として厚みがある。一方、収益力の低下などを受けて、20/3 期以降、営業キャッシュフロー創出力が低下している。

（担当）千種 裕之・関口 博昭

### ■格付対象

発行体：株式会社ニコン

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A+	ネガティブ

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第20回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	100億円	2014年3月14日	2022年3月14日	0.652%	A+
第21回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	100億円	2014年3月14日	2024年3月14日	0.864%	A+
第22回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	100億円	2020年12月2日	2025年12月2日	0.150%	A+

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第23回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	100億円	2020年12月2日	2030年12月2日	0.470%	A+
対象	発行限度額	格付			
コマーシャルペーパー	500億円	J-1			

### 格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2021年6月1日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信  
主任格付アナリスト：千種 裕之
- 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「電機」（2011年7月13日）として掲載している。
- 格付関係者：  
（発行体・債務者等） 株式会社ニコン
- 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

#### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

#### ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

#### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル